

# U.S. Indicators

発表日: 2020年10月19日(月)

## 米国 堅調さを維持する小売売上(9月小売売上高)

～7-9月期のコア小売売上高は前期の落ち込みを上回る急増～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

9月の小売売上高は、前月比+1.9%（8月同+0.9%）と加速し、市場予想中央値（ブルームバーグ集計）の前月比+0.8%を大幅に上回ったうえ、7、8月合計で0.2%上方修正された。6月にコロナ危機前の水準を上回った後も、拡大を続けている。また、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高も、前月比+1.5%（8月同+0.5%）と加速し、市場予想中央値（前月比+0.4%）を大幅に上回ったうえ、7、8月合計で0.1%上方修正された。7月にコロナ危機前のピーク水準を上回り、その後も拡大を続けた。小売売上高は市場想定以上の堅調さを維持している。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+1.5%（前月同+0.3%）と加速した（7、8月合計で0.1%下方修正）。6月にコロナ危機前の水準を上回った後も、拡大基調を維持している。また、9月のコア小売売上高は3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+57.7%（8月+58.4%）と強い拡大モメンタムを維持しており、小売売上高は力強さを保っていると判断される。四半期でも、7-9月平均で前期比年率+57.7%と4-6月期同▲26.4%から大幅プラスに転じたことから、7-9月期の個人消費の急回復を示している。

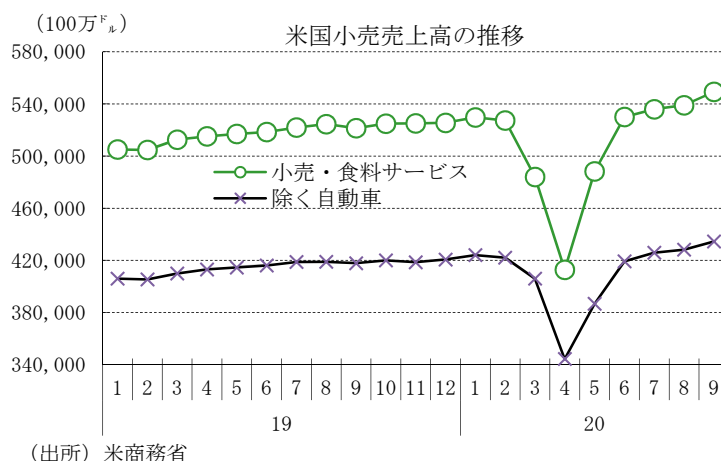
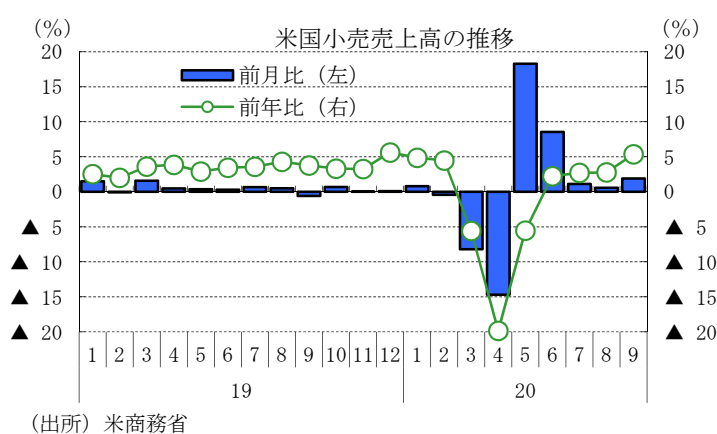
### 小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	除く車			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
				自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン			
20/01	+0.8	(+4.9)	+0.8	+1.5	+0.8	+4.0	+0.8	+0.4	▲0.6	▲0.6	
20/02	▲0.4	(+4.5)	▲0.5	▲0.7	▲0.4	▲0.1	▲1.3	▲0.3	▲1.6	▲2.9	
20/03	▲8.2	(▲5.6)	▲3.8	▲19.6	▲25.9	▲22.1	▲17.6	+2.3	▲48.7	▲16.5	
20/04	▲14.7	(▲19.9)	▲15.2	▲13.5	▲12.2	▲48.9	▲43.4	▲12.3	▲73.5	▲24.5	
20/05	+18.3	(▲5.6)	+12.3	+37.9	+48.3	+77.1	+24.6	+9.0	+180.1	+12.0	
20/06	+8.6	(+2.2)	+8.4	+9.4	+9.0	+39.0	+38.5	+5.6	+99.7	+15.0	
20/07	+1.1	(+2.7)	+1.6	+0.1	▲0.6	+2.1	+19.4	+1.2	+2.7	+4.5	
20/08	+0.6	(+2.8)	+0.5	+1.2	+0.7	+2.1	+0.4	▲0.3	+1.4	+0.9	
20/09	+1.9	(+5.4)	+1.5	+2.5	+3.6	+0.5	▲1.6	+1.6	+11.0	+1.5	

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比（未季調）。

\*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

\*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

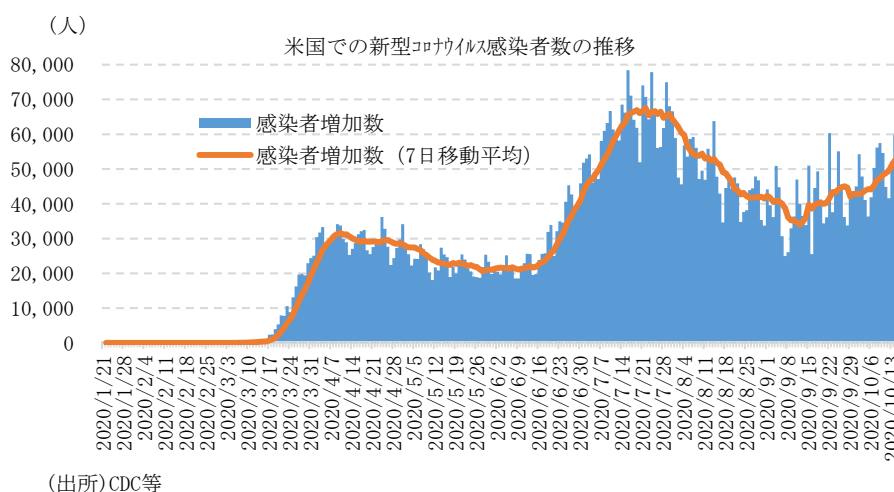


9月小売売上高（主要13業態）は、前月比で1業態の減少にとどまり、11業態で増加した。5、6、7月と3カ月連続で二桁増となった家電が反動や年末商戦前の買い控えで減少に転じた。一方、薬局、スポーツ用品・本・趣味用品、百貨店など一般小売が増加に転じたほか、自動車・同部品、ガソリンスタンド、衣料品、無店舗小売が加速した。家具、建設資材店、その他小売、飲食店はこれまでの高い伸びの反動で鈍化したものの、好調な住宅販売や修繕需要などを背景に拡大した。ロックダウン直前の買いだめの動きで急増した食品・飲料はロックダウンの解除後に勢いを弱めており、横ばいにとどまった。

9月小売売上高（前月比+1.91%）の主要13業態の前月比寄与度をみると、押し下げ寄与となったのは、家電▲0.02%（同+0.01%）の1業態にとどまった。一方、押し上げ寄与となった業態では、大きい順に、自動車・同部品+0.75%（8月+0.14%）、衣料品+0.39%（同+0.05%）、飲食店+0.21%（同+0.43%）、百貨店を含む一般小売+0.20%（同▲0.05%）、薬局+0.10%（同▲0.03%）、ガソリンスタンド+0.10%（同+0.06%）、スポーツ用品・本・趣味用品+0.08%（同▲0.10%）、無店舗小売+0.07%（同+0.04%）、建設資材+0.04%（同+0.17%）、その他小売+0.02%（同+0.03%）、家具+0.01%（同+0.04%）の11業態となった。なお、食品・飲料は0.00%（同▲0.18%）にとどまった。

前年比では、9業態（8月7業態）が増加した。無店舗小売、建設資材店、スポーツ用品・本・趣味用品、自動車・同部品、食品・飲料は二桁の上昇となったほか、薬局、家具、その他小売も高い伸びとなった。百貨店を含む一般小売も小幅ながら増加した。

米国では、4月下旬からのロックダウンの段階的な解除を受け、店舗が再開され、外出も増加したため、消費活動は回復し始めた。3、4月に労働市場が急激に悪化したのが、給付金や失業保険の上乗せなどの政府支援策によって所得が押し上げられたほか、労働市場の改善が続いていること、企業が販促を強化したこと等を背景に、小売売上高は4月下旬以降急激に回復した。9月にかけて、経済活動再開による人の移動の増加やマスクの不着用、ソーシャルディスタンス不徹底などによって、新型コロナウイルスの感染拡大が高い水準で続く中でも、小売売上高は拡大を続けた。今後も、新型コロナウイルスの感染者数が高い伸びを続けるとみられ、ソーシャルディスタンスを考慮した対策の維持・強化を継続せざるを得ず、小売売上高は緩やかなペースで拡大を続けると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。